

研究機関名：東北大学

受付番号：	2014-1-191
研究課題名	原発性アルドステロン症における副腎静脈サンプリングのための副腎静脈評価：CT と MRI との比較
研究期間	西暦 2014 年 7 月（倫理委員会承認後）～2015 年 7 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ CT, MRI 画像）
上記材料の採取期間	西暦 2012 年 5 月～2014 年 6 月
意義、目的	<p>正確な副腎静脈サンプリングにより片側副腎からのアルドステロン過剰分泌を確定診断し、鏡視下手術にて片側副腎摘出術を行うことで高血圧症の軽快ないし完治を見込める症例が多く見られることがわかってきた。</p> <p>しかし、副腎静脈サンプリングの成功率は右側では低く、既報告では 70-80%である。当院では原発性アルドステロン症患者に対して、副腎病変および副腎静脈の走行を評価するために、CT, MRI 検査を行っている。これらの検査で同定された副腎静脈の走行は、実際に経カテーテル的副腎静脈サンプリングを行う際の参照画像として用いており、サンプリング成功率向上に役立っている。本研究の目的は、CT と MRI での右副腎静脈描出能を比較することである。本研究の結果をもとに、静脈サンプリング法の術前評価法として CT と MRI の意義を明らかにし、原発性アルドステロン症患者の診療における、副腎サンプリング法の標準化と普及に役立てたい。</p>
方法	<p>対象：原発性アルドステロン症と診断され、2012 年 5 月～2014 年 6 月において、副腎静脈サンプリング前に東北大学病院で造影 MDCT, MRI を撮影された症例 100 例を retrospective に解析する。</p> <p>CT, MRI 画像は、東北大学病院内の画像サーバーに保存されている。これらの画像を、ワークステーションに展開し、右副腎静脈を評価する。</p> <p>評価項目： 右副腎静脈について以下を評価する。 右副腎描出能：excellent, good, fair, poor, none の 5 段階評価を行う 副腎静脈径および長さ、椎体と比較した下大静脈への流入部の高さ、副腎静脈への左右方向の角度、頭尾方向の角度、副肝静脈との共通幹の有無、副右副腎静脈の存在の有無を評価する。 CT と MRI にて、上記所見を比較する。</p> <p><個人情報の取り扱いについて> ・保護の具体的方法 登録患者の氏名、生年月日、住所、電話番号等の個人データは東北大学病院から外部に持ち出されることはない。</p>

問い合わせ・苦情等の窓口

仙台市青葉区星陵町1-1

東北大学病院 放射線部 助教 大田 英揮

022-717-7312 (放射線診断科 医局)